

熱演！「受動喫煙防止サミット 松沢知事が伝えたかったこと」 IN 浜松

「講演時間を延長したいのだが……」と知事サイドからの打診。思わず耳を疑いました。10月9日の「受動喫煙防止サミットIN浜松」で神奈川県知事を招聘した時のエピソードです。

加藤一晴

こどもをタバコから守る会・代表
日本禁煙学会・監事

帰りの新幹線時間変更

ほぼ満員の雄踏文化センター会場には、今か今かと待ち受ける聴衆の姿がありました。公用車で移動できる神奈川県内ではなく、列車移動の静岡県。当初、知事室からは浜松滞在は2時間以内とお聞きし、それに合わせたスケジュール調整でした。

渋滞を予測して急遽、浜松駅から在来線に移動して、二つめの舞阪駅までお越しいただきました。会場までは、待機していた遠鉄タクシーで

来られましたが、車窓の「松沢知事浜松にきたる！」ステッカーに、どのような感想だったでしょうか。三連休初日・雨天・交通渋滞・地域祭典等の悪条件が重なり、一部から大勢の集客を疑問視されていました。が、意欲的な来場者はそんなハンデイなどありませんでした。

松沢知事招聘に向けて

神奈川での受動喫煙対策を知ったのは平成20年4月。筆者は、日本禁煙学会47都道府県喫煙対策委員長と



して、欧米並みの喫煙対策を期待していましたが、それが隣県から始まることに強い期待を寄せました。そして以下の応援や関連事項を示します。

- (1) H20年8月、神奈川県庁知事室を
作田学理事長と共に表敬訪問
- (2) H20年10月、息神社無煙大祭に神
奈川県議を招待
- (3) H20年11月、浜松健康家族フォー
ラムに松沢知事ビデオレター

(4) H21年1月、県民タウンミーティング壇上で発表

(5) H21年3月、全国禁煙推進地方議員連絡会結成総会に出席

(6) H21年6月、静岡県知事選挙で松沢知事は川勝候補の応援演説をする

(7) H21年8月、日本医事新報のエッセイに投稿

(8) H21年9月、第4回日本禁煙学会学術総会（札幌）大会で面談

(9) H21年10月、第11回市民公開フォーラムに関口県議と小島県議の講演

(10) H21年12月、定例県議会で静岡県議会議員が川勝平太知事に質問

知事派遣の要件と広報手段

(1) 滞在2時間以内、(2) 集客300名以上、(3) 「それでもタバコを吸いますか」の会場販売。以上が神奈川県知事室から伝えられた条件でした。少しでも満たすべく、実行委員会を立ち上げ、「主催…こどもをタバコから守る会 共催…日本禁

煙学会」として、後援を自治体・教育委員会・医師会・歯科医師会・薬剤師会・中日新聞東海本社としました。

広報手段は、ポスターを製作し、浜松・豊橋地区の医療機関や公共施設・街頭への配布を行ない、新聞・TV・ラジオなどへ情報提供しました。

案内状は、県内外の広域自治体と県内自治体首長と健康対策部門・保健所、静岡県議・浜松市議・湖西市議にも送り、教育機関は小・中・高合わせて500校に届けました。著書『それでもタバコを吸いますか？』は、谷島屋書店に会場販売を依頼しました。

川勝知事招聘ならず

現場主義の川勝平太知事は就任以降、東奔西走の日々が続いています。「受動喫煙防止サミット」に川勝知事が参加されることを知った大石悠太さんや市内小学生が手紙を用意しましたが、大村慎一副知事に代理を

任されました。日本財団の笹川良平会長と厚生労働副大臣に就任された小宮山洋子衆議員に手紙を書き、メッセージで支援いただきました。松沢知事は、笹川陽平会長との共著があり、会場販売されるので一石二鳥です。

悪天候に祟られたサミット当日、そもそもこのイベントは、松沢知事が当地区で開催される息神社無煙大祭を経験していただくことが目的でした。

雨脚は一向に衰えず、止むなく境内視察は中止としました。すでに大ホールでは、こどもをタバコから守る会・顧問の林望先生のビデオメッセージが始まっています。

サミットの総合同会は原田靖子さん。大谷美津子理事の開始の挨拶、受動喫煙による健康被害提示と参加議員紹介に続き、石井廣重座長の司会で、高田好浩氏、鈴木良一氏、岩崎拓哉氏、倉田千弘氏の4名によるそれぞれの意欲的な意見発表に、聴衆は深い感銘を受けました。

浜松副市長の挨拶のあと、鈴木康

友市長のビデオレターが流れました。司会の原田さんが、オーストラリアから届いた大石悠太さんからのメッセージを読み上げ、副知事の大村慎一氏による静岡県喫煙対策の現状報告に繋がりました。

スモークフリー社会を目指して

基調講演の座長は、加治正行先生。紹介により壇上には松沢成文知事が姿をお見せになりました。大ホールに収容されている大勢の聴衆は、一斉に静まりかえりました。

松沢知事は、如何にして神奈川県が条例制定に至ったのか、その必要性は何処にあるのかを、為政者の立



講演する松沢知事

場からわかり易く話されました。衆議院議員三期を勤めた後に、国を改革するには900万広域自治体を基盤にするしかない」と決意し、神奈川県知事になりました。海外視察をするうちに、先進諸外国では室内環境で喫煙光景が無いことを実感したそうです。

WHO主導のたばこ規制枠組条約に向けて、様々な喫煙規制を進めています。が、わが国では遅々として進みません。それは日本のたばこ政策をすべて財務省が管轄しているからで、厚生労働省が進言してもほとんど変わらなかったのです。

神奈川県内の様々な場所でタウンミーティングを行ない、飲食店・宿泊業界・パチンコ業界などの風俗産業と徹底議論しました。国が動かないのなら、神奈川県から変えていく覚悟で、条例制定を目指しました。

タバコと健康の問題は、日常的なだけに難問山積ですが、自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見にも耳を傾ける姿勢は大切です。時間をかければ、相手にもそれが伝わ

り、理解されるようになり、高い次元での合意形成ができます。

時間をかけても、押し通せば否決されゼロになります。そうでなくても少しでも前に進めることが大切であり、政治は結果責任なのです。

当初は、条例制定に徹底的に反対する議員ばかりでした。とにかく従来の既得権を失いたくない人々は強硬に廃案に持ち込もうとしました。一番反対したのはパチンコ業界で次が居酒屋でした。代表者と徹底した議論を行いました。

小泉改革は、力で押しつぶそうとしたことが間違いで、結果恨みをかきました。結果的に恨みが残った側は、改革してもルールを守りません。その教訓として、徹底的に話し合いをして、少しでも前に進めることを目指しました。「政治は交渉の芸術」「政治は妥協の芸術」だと思っています。

最終的には、県議会議長との待ったなしの対決になりましたが、県民の民意で選ばれた人たちですから、かなり理解を示すようになりました。

た。こんな時、強力に後押ししてくれたのは医療系団体でした。議長の要求は、(1) 罰則なし、(2) 小規模店舗、ホテルは経営的にムリがあるので努力目標にすべしとのことでした。

罰則なければルールを守らないことは、多くの事例が示していますので、譲れません。一方小規模店舗、ホテルは努力義務でスタートして3年後に判断することにし、昨年3月に条例制定は県議会を通過しました。

受動喫煙防止条例制定後

しかし、マクドナルドや牛丼の吉野家は、面積上規制対象外なのに、全面禁煙を打ち出しました。このように突破口が開けば、あとは自ずと理解が進んでいきます。今年は、海水浴場にも喫煙規制をかけて、結果的に海の家近くに喫煙所を設け、砂浜を全面禁煙にしたので利用者からも喜ばれました。

「条例の制定はゴールではなく、スタートです。タバコの害のない健康

な社会が形成されることがゴールなのです」と静寂なコメントで力強く締めくくりましたが、筆者はここに至るまでの壮絶な道のりをつぶさに眺めてきたので、並大抵のご苦労ではなかったことを知っています。

決して尊大になることもなく、平易な言葉で聴衆500名に向けて語る様は、自信に満ち溢れ、揺るぎない信念を感じさせました。期せずして会場から割れんばかりの拍手が起きました。

禁煙啓発法被と花束とサイン会

視察するはずだった息神社神主が、禁煙啓発法被を特注しました。胸には、神奈川県受動喫煙防止条例のトレードマーク「ズワンゾウ」を張り付けた特別な法被です。寄贈された松沢知事は、満面の笑みをされしました。更に雄踏小学校児童の青木七海さん、青木小太郎くんが花束を寄贈しました。

そして、列車発車時刻ギリギリまで、イベントホールで著書『それで

もタバコを吸いますか?』にサインしたり、記念写真に応じたりされました。長距離の移動や60分強にも及ぶ講演でお疲れのはずなのに、そういう表情は見られませんでした。

今振り返れば、サミット準備から当日には、種々の障壁がありました。よが、皆吹っ飛んでしまいました。よく神奈川県知事をお招きできたなあと思ねられます。しかし、いかになく「やらまいか精神」を発揮したのです。とにかく松沢知事は、380万人広域自治体静岡の、82万人政令市浜松の地域住民にとって、これ以上ないほどのメッセージと真摯な対応をして下さいました。

サイン会を終え、タクシー車窓から笑顔と共に手を振られた姿を鮮明に覚えています。「サミット成功」は静岡の喫煙対策に楔が打ち込まれた瞬間でした。

今後、我々「子どもをタバコから守る会」一同は「受動喫煙防止サミット IN 浜松」を開催できた自信と誇りを胸に活動していきたいと思います。